

### 31. 業務改善に向けた夜勤時間変更の検討

福岡大学病院 本多 里美

#### 【 実践の概要 】

当院の二交替勤務体制の夜勤時間は14時間であり、18時30分が長時間日勤者（8:30～18:50の10時間勤務）と夜勤者（18:30～8:50勤務）の引継ぎ時間である。管理者も含め通常の日勤者（8:30～16:50勤務）は、この時間勤務を終了している。看護師が少なく、夕食時の繁雑な時間に引き継ぎがあることで、看護力の低下、長時間日勤者の超過勤務、夜勤者の勤務前早期出勤につながっていると危惧した。これらの問題を少しでも解決できるよう、引き継ぎ時間の変更を検討する必要がある、通常の日勤者と夜勤者が16時30分に引き継ぎを行う16時間夜勤へ変更できないかと考えた。しかし、夜勤時間延長への抵抗感も予想され、また、看護師長の現状認識も様々と考える。そこで、7対1看護導入後の二交替勤務体制を評価して現状の問題を明らかにし、業務改善に向けた意識を高め、よりよい勤務体制への検討を行いたい。

#### 【 実行計画 】

##### <目標>

現二交替勤務体制を評価し、二交替勤務体制の夜勤時間の変更（引き継ぎ時間の変更）を検討する。

##### <方法>

- ・ 交替勤務を行っている看護師へ現二交替勤務体制についてのアンケート調査を実施する。  
内容) 超過勤務状況、休憩取得状況、希望の夜勤時間等について
- ・ アンケート調査結果を看護師長研修会で報告し、夜勤時間変更も含めた業務改善について議論し、看護師長の意識改革につなげ、16時間夜勤変更への意識を高める。
- ・ 16時間夜勤を試行し、現体制と比較し評価する。

#### 【 結果およびまとめ 】

- ・ 調査結果より、長時間日勤が夕食時間帯に勤務終了であるため、定刻に勤務終了しない状況が明らかとなった。夜勤時の休憩は比較的とれていた。現行の14時間夜勤を希望する看護師が68%、16時間夜勤希望は21%であった。7対1看護導入後の二交替勤務体制の現状が明らかになり問題抽出ができた。14時間夜勤以外の夜勤体制を希望する看護師も少なくないことがわかり、今後も業務の効率化、看護師のワークライフバランスも考慮し、勤務体制の検討を継続して行う必要がある。
- ・ 調査結果報告後、看護師長のほとんどが16時間夜勤に興味を示し、自部署の看護師へ話題提供をし、積極的に16時間夜勤を考えたいというものもいた。今後も看護師長間で現二交替勤務体制における看護の質の維持、看護師の労務管理、管理者の夜勤者への管理的関わりなどについて評価し、問題を共有し、業務改善、勤務時間検討につなげる必要がある。
- ・ 超過勤務減少のため業務改善したいという部署が16時間夜勤を試行した。夜勤時間延長となるため、看護師へ現状の問題解決への理解を促し、全員参画への協力を得た。体調変化を確認しながら1ヵ月間施行した。看護師は夜勤時の疲労感を訴えたが、夕食時間帯に引き継ぎがないことで患者のケアに集中でき、また、夜勤者へ業務移行することで日勤者が早く退勤できたとの意見があった。今後も看護師の意見に着目し、病床再編、看護師配置などもあわせた環境づくりを行いたい。

#### 【 評価 】

1ヵ月間16時間夜勤試行を行い、看護師より様々な評価、意見を得た。同部署で新採用者が業務に慣れたころに3ヵ月間の試行計画が確定し、次ステップへつなげることができた。試行状況を看護師長会へ報告し、看護力の低下を招かない勤務体制の工夫について議論を重ね、新たな試行部署を募り、病棟の特殊性に合った夜間勤務体制の確立につなげたい。